opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -68

1957年、当時大阪の司教であった田口司教(出津出身)はローマを訪れ、ある枢機卿に関西でカトリックの大学を始るという計画についと枢境を求めました。するとした。

2025/01/29

過去の記事はこちらから

1950年代にオプス・デイはヨーロッパとアメリカ大陸に広がっていきました。これらの国は程度の差こそをれまり、大教の伝統のある国々でリスト教の伝統のある国フランをでいたがいわゆる宣教でしたがいわら宣教でした。とを心にかけていて、そこにかけていたとをいたのはおいた。

1957年、当時大阪の司教であった田口司教(出津出身)はローマを訪れ、ある枢機卿に関西でカトリいなが書を始めるという計画を超れてかました。すると紹介といするとをがあると紹介を記されている。1958年4と、おいるは、ムスキス神父は日本にといるには、ムスキス神父は日本の状況を調べまります。1958年4、列島を旅行して日本の状況を調べまります。1958年4、列島を旅行して日本の状況を調べまります。1958年4、月、日本には日本の状況を調べまります。

した。その途中でローマに出した手 紙が届いた時、聖ホセマリアは喜び のあまり「日本からの最初の手紙! 聖マリア、海の星、あなたの子ども たちを守りたまえ」と封筒に書いた そうです。ムスキス神父は長崎も訪 れました。創立者に是非殉教者の地 に接吻するよう頼まれていたからで す。

この報告を踏まえ、1958年11月8 日、アメリカ合衆国からホセ・ラモ ン・マドルガ神父が来日しました。 翌年には同じく合衆国から二人のス ペイン人神父が到着しました。一人 が精道学園の初代校長を務めたフェ ルナンド・アカソ神父です。すでに ムスキス神父は日本には英会話の習 得に関心が高いことを知りました。 そこで芦屋に英会話学校を開きまし たが、これは当時としては珍しくと ても人気を博し学校は成長していき ました。その後1962年には京都に学 生寮を、1976年には長崎に、90年に は大分にセンターができます。

聖ホセマリアは欧米とは全く異なる 文化の国に働くメンバーを殊のほか 気にかけ、絶えず慰めと励ましの 意を送っていました。しかしません。 日本の地を踏むことはありません。 とはありませんの望みをかなえたのが後継 者の福者アルバロです。1987年2月 に来日し、長崎にもお話くださいました。 児童生徒たちにもお話くださした。

(このテーマについては、中井俊己著『天と地をつなぐ』により詳しく 語られています)。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-68/ (2025/12/14)